



産学連携による UX デザイン研究



ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科/情報デザイン、ユーザーエクスペリエンスデザイン

堀江 政広 HORIE Masahiro

教授、博士（情報科学）

1. 研究内容

情報デザインの分野における大きな課題の 1 つに、ユーザーエクスペリエンス（UX）デザインがある。UX デザインのためには、真のユーザーのニーズを見出すことが重要である。そのために、実践ワークショップをデザイン開発プロセスに積極的に取り入れることが本研究の特徴である。

UX の提供のために、サービス・アプリケーション等の企画をし、ワークショップ、プロトタイプ制作、研究開発、実装をしている。そしてこれらの実践により、デザイン開発プロセス研究を進めている。

2. 地域・産学連携の可能性

これまでの研究における成果物にはサービス、アプリケーション、Web サイト、イベントがある。ICT 企業とのモバイルアプリの共同研究・開発プロジェクトでは、ニューツーリズムを支援するための観光アプリをリリースした。

社会福祉法人との共同研究では、高齢者の自立支援を目的とした「バリアウォーキング」という活動のデザインをしている。これは、日常生活におけるバリアを積極的に利用してウォーキングし、体力の維持・向上を図る試みである。

他大学との共同による東日本大震災復興プロジェクト「語りと記憶のプロジェクト」では、国内外でワークショップと展覧会を開催している。

これらに共通していることは、クライアント側の一方的な提供ではなく、ユーザーが真にやりたいことを楽しくできるように UX を提供していることである。共同研究により、UX デザインの手法を開発し、企業・団体で UX を実践することを期待している。



情報デザイン、ユーザーエクスペリエンスデザイン、UX、ワークショップ、アジャイルソフトウェア開発、メディア、高齢者福祉、ニューツーリズム、観光